

## 南三陸町立戸倉小学校

2014年 12月 19日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)  
北林 雅洋(香川大学教育学部)

### 【文献】

- (1) 『子どもの命は守られたのか』数見隆生 編著(2011)かもがわ出版
- (2) 「東日本大震災における学校の対応-戸倉小学校」宮城県 東日本大震災に係る教育関連記録集  
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/12404.pdf>

### 【場所】

海から約200m、川から約250mの位置にある。  
住所:宮城県本吉郡南三陸町戸倉沖田18番地  
※現在は別の場所で他の学校と統合して再開。



### 【東日本大震災による被害】

津波により3階建て校舎の屋上まで水没し全壊。  
※現在校舎は取り壊されている。

### 【震災当日の様子】

震災がおこった時、高台に避難して難を逃れた学校である。校長によると、着任後責任者としての自覚から震災津波を予想し、専門家からの情報も入手して三階建ての校舎の屋上避難を職員集団に提起したが、以前からいる職員たちから高台に避難すべきとの強い主張を受け、それに従ったことで結果的に子ども全員を守れたということである。(1)  
地震の揺れが収まった後、校庭に残っていた1・2年生も含めて91名の児童が玄関前で点呼し、点呼後すぐに高台へ避難した。点呼中に大津波警報(6m)をラジオで確認。15時頃、高台へ到着し再び点呼。学校にいた91名全員の避難を確認。15時10分頃、「女川の潮位の変化があった。大津波に警戒するように」とのラジオ放送があり、大津波警報が10mへと変更された。15時30分頃、津波が折立の住宅街に到達するのを確認し、高台のさらに上に登るように指示し、高台を登った先にある五十鈴神社へ避難した。最初に避難していた高台にも津波が到達し、神社は周囲を水に囲まれて島のように孤立した。

震災が起こった日は下校していた児童が14名、欠席が1名、早引けが1名いた。下校した児童の内7名はそろばん塾にいて無事、3名は帰宅、4名は別の高台へ避難しており、その内の1名が高台が津波に襲われなくなったことが後に確認された。(2)

### 【調査して言えること】

学校の標高は約1.5mで、海から約200m、川から約250mの場所にあり、地震の際は津波を警戒した避難の必要な学校である。

学校から西に200mほど離れて山があり、その山に最初に避難した高台と次に避難した神社がある。高台の標高は17mほどで、津波の避難場所としてはやや低い場所である。神社の標高は30mほどあり、安全な高さである。しかし、浸水した場合この神社は孤立し、次に逃げる場所がないため、火災など避難し続けることが困難になった場合の対処が難しい場所である。この神社のある場所からさらに西に100mほど離れた場所も山になっていて安全な高さまで逃げることはできるが、そこに行くためには一旦低い場所を通る必要があり津波からの避難の場合注意が必要である。

学校の近くに高台や山があるが、安全な津波避難のためには避難経路の設定に注意が必要な学校である。



東から見た学校のあった場所(2014/3/18撮影)  
※土が盛られている場所に校舎があった。



最初に避難した高台と次に避難した神社(2014/3/18撮影)  
※木で見えないが、林の中に神社がある。